



11月まで毎月1回行われる
しおじり地産地消フェア

問 個々の事業の成果は上がっているが、1次産業から3次産業まで関わる幅広い取り組みで時間がかかるのが一つの課題だ。

問 6次産業化が核戦略ならば、市にも相談窓口を設置するよう提案したい。(青柳)

◆強力に農家支援を

問 4月の凍霜害は特に深刻だ。全ての農家を支援すべきである。精神的なダメージが大きく再建への対応が必要だが、取り組みは。(山口)

答 今回は作物の生育が進んでいたところへ、かつてない厳しい寒さが原因で、特にナシは壊滅的な園もある。果樹野菜農家全体に、農薬・肥料・花粉・代替用の苗や種など全額を支援したい。

◆低温など農業被害への対応

問 凍霜被害は甚大で農家へ

自然エネルギー政策の前進を

◆エネルギービジョンの活用

問 市の新エネ・省エネ両ビジョンの生かし方は。(丸山)

答 東日本大震災後、国や国民の意識も変化している。市の第二次環境基本計画策定の中で新エネ・省エネを含め実

の対策支援の状況及び果樹共済の課題は何か。(鈴木)

答 緊急対策等も従来に比べ、次元の違う対応に努めている。流通コーディネーター、JAの協力による被害作物の販路開拓、市内量販店での応援フェア等収入に繋がる支援に努める。共済は無償部分、償金支払時期などの改善が課題である。



凍霜被害により実のつかない梨



ペレット燃料とストーブ

効性のある見直しを行う。

◆信州Fパワープロジェクト

問 製材など既存事業から分離し経営管理する方が結局は関係者全員の利益になる。発電部門の別会社化を。(青柳)

◆信州Fパワープロジェクト関連事業を効果的に

問 県産材利用推進の取り組み状況はどうか。(丸山)

答 本市も県も木造公共施設整備により推進してきている。国は本年度から「木材利用ポイント事業」導入により地域の木材振興も図っていく。

問 製材時に発生する「おが粉」を活用してのペレット生産の可能性はどうか。(丸山)

答 原油よりペレット燃料は販売価格が安定的で市内製造が可能なら輸送コストもかからないが、専用のストープ等の普及も課題。研究していく。

◆(仮称)吉田西地区防災コミュニティ施設

問 完成を心待ちにしている。管理運営方針は。(中村)

答 地元区への指定管理の方法を検討しており、区長会を中心に協議をお願いする。

◆光ファイバーで災害対策を

問 市内に配備されている、光ファイバーネットワークを活用し、行き届いた災害防止対策を。(横沢)

答 産・学・官で開発し、市内企業も参加実証実施している土石流センサー、水計、傾斜計等を活用した災害防止対

地域の安全対策の強化を



県産材を活用した広丘野村保育園